昭和大学附属烏山病院だより

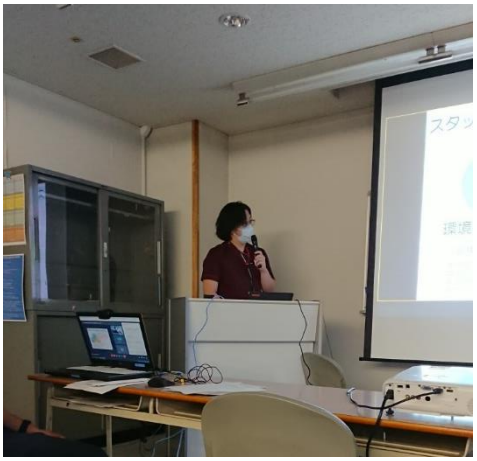
あおぞら

〔発行責任者〕病　院　長　岩波　明
〔編集責任者〕広報委員長　常岡　俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第１８２号　［２０２２年１０月３１日発］

令和４年度院内学会

Ⅰ．「チームの一員だと感じることができる場」　作業療法士　小林　崇志



COVID-19 の蔓延に伴い、集団形式をとることが多い精神科作業療法は、大きな影響を受けました。今回、実際にクラスターが発生し、ホールに集うこと自体ができなくなるという事態が生じた際、“クライエントは誰か”という別の視点から、ケアの環境を整えるという作業療法を行った経験について報告させて頂きました。

院内学会発表当日は、一緒に取り組んだ病棟師長、励ましの声かけを続けてくれた看護次長からも当時を振り返ったコメントを頂きました。いつも見守ってくれている安心感、そして心強さを感じたとともに、あの時の記憶が蘇り、熱いものが込み上げてきました。

発表を終えて、院内学会の良さを改めて感じています。研究発表だけでなく、日々の取り組みをシェアし、意見交換をし、互いに認め合うことは、また明日から頑張ろうという意欲につながります。業務の時間を割いて自分（達）の取り組みに耳を傾けてくれる人がいるという安心感は、チームの一員であるという所属感や帰属意識を育みます。今後もこのような場が在り続けて欲しいと思いますし、ぜひ、多くの部署の日々の取り組みを聞いてみたいと感じています。今回は貴重な機会をありがとうございました。

Ⅱ．総合病院の患者のもとへチームで赴く　　精神保健福祉士　水野　有紀

「総合病院の患者のもとへチームで赴く『架け橋プロジェクト』」というタイトルで発表しました。「架け橋プロジェクト」とは、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーのチームで、総合病院に入院している患者さんに実際に会って、「精神科病院に来たら、こんな治療や支援を受けられますよ」ということをお伝えする取り組みです。練馬光が丘病院の総合診療科と連携して、今年の６月から月１回で始めました。総合病院にはアルコール多飲での急性膵炎、摂食障害による全身衰弱、自殺未遂による意識障害など、精神科の専門治療が必要な方が多く入院してきます。私が総合病院に勤務していた際、その方たちに身体科の医師と一緒に口頭で精神科の受診や入院の必要性を説明しても、多くの方が「精神科はいいです（遠慮します）」と受診に繋がりませんでした。一般的に「精神科」と聞くと“怖い”とか“社会的にデメリットがあるのではないか”ということが頭に浮かぶようです。しかし今回、「架け橋プロジェクト」でお会いしたほとんどの方が、入院または外来に繋がっています。必要な方が、必要な支援者と繋がって、なるべく苦痛が少なく社会生活を送って行かれるとよいと思っています。

Ⅲ．精神障害領域で働く作業療法士の学術研究参加の阻害要因の検討

作業療法士　佐藤　範明

今回は「精神障害領域で働く作業療法士の学術研究参加の阻害要因の検討」を発表させていただきました。このようなリサーチクエスチョンを立てたのは、研修会や学会に参加した際に、参加者が同じ顔触れだったり、参加・発表する施設に偏りを感じたためでした。そのような経験を機に、今後の精神科作業療法の発展に危機感を感じ、本テーマを大学院に進んで研究したいと思うようになりました。

精神科領域の学術研究課題は作業療法士のみならず、医師、看護師、他の職種でも生じており、また海外でも同様の傾向であったため、精神科領域における学術研究の阻害要因を明確化することは今後の精神科医療の発展に寄与できると感じ、一層興味深くなりました。

研究の結果、学術活動を促進させるには、ワークライフバランスの調和、客観的な評価指標の活用、人的・社会的資源の活用が重要であると推察され、この結果を元に、当院でも、研究活動が促進されるように、作業療法士として努めていきたいと考えます。

客観的指標に基づきチーム医療に加わり、まずは自らが臨床家かつ研究者として他職種や部署内で人的環境要因として努めていけたらと考えております。

この度は、貴重な発表の機会をいただきありがとうございました。

看護業績賞受賞について

A3 病棟　看護師　前田　愛

この度、昭和大学理事長から看護業績賞を拝受いたしました。あまり耳慣れないもので、お恥ずかしながら受賞したわたし自身もこのような賞があることを存じ上げませんでした。この看護業績賞というのは昭和大学に従事する看護教職員約 3400 名を対象として、年間の活動や研究などの成果を査定し、業務部門・研究部門で表彰するものです。光栄なことに、わたしは看護研究会で報告させていただいた「患者暴力への対応力向上に対する活動について」というものが業務部門で表彰いただくことになりました。

今回わたしが拝受しました「業務部門」での活動内容について、みなさまにご報告をさせていただきます。2020 年度の精神看護専門看護師としての活動は次の通りです。

烏山病院と昭和大学系列の横浜北部病院で活動を行いました。烏山病院では患者さんと職員の安全を守ることを目的として、医療安全管理部門直属の「暴力対策ワーキンググループ」を運営いたしました。烏山病院で実際に発生している暴力の現状分析を行い、ケア場面での課題を明らかにいたしました。この結果から看護職員に対して、暴力予防ケアに関する教育（暴力防止の知識・技術・個人ワーク）を行い、どのようなケアが患者さんも看護師も安全にかかわり合えるかを共有していきました。横浜北部病院では看護次長よりコンサルテーションをいただき、総合病院で発生する暴力の現状分析と暴力予防ケアに関する教育（暴力の基礎知識・患者さんへの理解を深めるための個人やグループワーク）を行いました。

活動の結果としては、激しい暴力の報告件数が減り、軽度な暴力（処置を必要としないものや言葉の暴力など）の報告件数が増えました。これは、激しい暴力が発生する前にスタッフのかかわりによって暴力を軽減もしくは予防できたのではないかと考えております。

このような賞はたいへんありがたいことなのですが、わたし一人で受賞できたとは思っておりません。コロナ禍で忙しいなかでも病棟内外の専門看護師活動を快く送り出してくれる部署スタッフ、研修動画を視聴してさまざまな感想を寄せてくださるスタッフ、活動に理解を示し協力してくれるワーキンググループのメンバーや組織の管理者のみなさんの存在があってのことです。ですので、今回の受賞は烏山病院のみなさんといただけたものということで、今後とも安全で安心な病院づくりに取り組めれば幸いです。

(左から池田看護次長・前田看護師・増田統括看護部長)

デイケア向上委員会について　　R.S さん

私は月曜日の午後に行われているデイケア向上委員会に参加しています。デイケアでやってほしいイベントやプログラムのアンケートを作成したり、貸し出し用の傘の消毒や数の管理をしたりしています。現在は落書きコーナーも設置しています。

私は八月から入ったので、メンバーの話し合いについていけずもどかしく感じたり、途中退席したりしたこともありましたが、今は慣れたので少しずつ話し合いについていけるようになりうれしいです。話し合いではハロウィンイベントやクリスマスイベントをやりたいなどの意見を言うことができました。

反省点としては、デイケア向上委員会からみんなに伝えたいイベントなどの情報を告知する担当になっていたのに、忘れることが度々ありました。

デイケア向上委員会を通して、「話し合いに参加する力」と「イベントを運営する力」と「予定を覚えておく力」を磨いていきたいです。

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・８時３０分～１７時
　　土　曜　日　　８時３０分～１３時
電話：月曜日～金曜日０３－３３００－５３２９
　　土　曜　日　　０３－３３００－５２３１
◎初診受付：月曜日～土曜日・８時３０分～１１時
◎休診日　：日祭日・本学創立記念日・年末年始

≪9 月 ≫	入 院(前 月)	外 来(前 月)
◆延 患 者 数	8,225(8,552)	5,865(5,929)
◇一日平均患者数	274.2(275.9)	244.4(228.0)
◆診 療 実 日 数	30(31)	24(26)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。
こちら当院のホームページの QR コードとなります。
ぜひご覧ください。

【 編 集 後 記 】

先日まで彼岸花が咲いていたと思ったらコスモス、キンモクセイとすっかり秋ですね。
秋といえばやはり食欲の秋、秋刀魚でしょうか。不漁なのでしょう。庶民の食べ物だと思っていましたが、高価な魚に変身してしまいました。
それでもおいしい秋刀魚は食べたいものです。今夜はスーパーによって高くても買って帰ることにします。大根とカボスなんかも一緒に、、
皆さんもいかがですか？

(広報委員　中川)